

一般社団法人 日本物理学会  
2017年事業報告  
(2017年1月1日～12月31日)

目次

\*\*\*\*\*

- 1. 事業概要
- 2. 各事業詳細資料 (附属明細1) 処務詳細資料
  - 2-1. 学術講演会の開催・後援等 ・総会・役員会等に関する事項
  - 2-2. 国際交流・協力活動 ・契約・入札・他に関する事項
  - 2-3. 物理学に関する普及・啓発活動 (附属明細2) 会員の異動状況
  - 2-4. 本会の目的達成のために重要な活動 (附属明細3) 事務局の現況
  - 2-5. 刊行物 (実施事業を含む)

\*\*\*\*\*

1. 事業概要

主な活動内容は

- 1) 応物の事務所移転に対応した事務局・刊行事業体制の再構築
- 2) 英文誌刊行事業の検討・整備と学会誌の充実
- 3) 会友制度の導入
- 4) 学会活動を支える事務局・各種組織と財政基盤の整備
- 5) 国内外の学協会・団体との連携の強化と国際化
- 6) 社会への物理学情報の発信力強化と学会活動の広報
- 7) 物理学関連の教育、人材活用・支援を通じた社会連携
- 8) 大会のあり方の検討と充実
- 9) その他

である。以下にそれぞれを概観する。

1) 応物の事務所移転に対応した事務局・刊行事業体制の再構築

日本物理学会は、2012年度、新橋の旧事務所から現湯島の事務所への移転し、同じビルに本部を構えていた応用物理学会と刊行センター業務を共に行う等の密接な連携を行ってきたところであるが、2016事業年度2016年2月14日の日本物理学会・応用物理学会情報交換会の席上、応用物理学会長より、「応物は根津に新たな自社ビルを建築し、刊行センターの職員共々2017年度中に移転する。応物の移転に伴い物理学会には費用面での負担はかけない」旨の突然の通告を受けた。湯島ビル5Fの刊行センターに応物と同居して刊行業務を協力して行ってきた物理学会は、この予期せざる新事態を受け、刊行業務のみならず事務局全体としての業務体制を急遽再構築する必要に迫られた。検討の結果、8Fの事務局本部機能を5Fに移転させて刊行担当部門と同一フロアに集約、4Fの会議室フロアと一体化させ、スペース的にも業務内容的にも一層の緊密化を図ることによって、この新事態に対応することとした。2017年6月の応物の退去およびその後の5Fの原状回復工事を受け、5Fで刊行業務を行っていた刊行センター職員が一時的に4Fの会議室の一部を仮事務所として業務を行うといった過度的な対応も迫られたが、最終的には2017年8月25、26日に、本部職員については8Fから5Fへ、刊行担当職員については4Fの仮事務所から5Fへの引っ越しが全て無事完了し、2017年8月28日からは5Fと4Fに集約された新たな事務局での業務を開始した。特に業務面での混乱はなく、スムーズに移転作業を終了出来た。またこれを機に、事務局のサーバーの大部分をクラウド化してサーバースペースを節約、賃貸料の節減に繋げることも出来た。なお、物理学会としては、今回の応物の移転への対応によって生じたフロアの移転費用や5Fのレイアウト経費等の一部負担を2017事業年度2017年3月27日の日本物理学会・応用物理学会情報交換会等を通じて応用物理学会にお願いしたところであるが、御同意頂けなかったのは、大変残念であった。

2) 英文誌刊行事業の検討・整備と学会誌の充実

JPSJ については、2014 年から移行した Atypon Literatum 上でのオンラインサービスをさらに充実させた。投稿料を 2016 年 8 月から原則(10 ページまで)無料化するとともに、オープンセレクトへの CC BY 適用と料金改正を実施したが、本年度はその効果を注視し、投稿数の増加、掲載数の微増を確認した。また、JPSJ に論文を寄せてくる人たちからの要望が高い購読機関数の増加を、第 2 期 JPSJ 将来計画ワーキンググループを中心に議論した。オンラインプラットフォームを物理学会で維持しながら、セールス・マーケティングを行ってくれる海外大手出版社を探し、JPSJ フレンドシップミーティングなどを通じて会員に説明し意見聴取をしながら、提携に向けて協議を進めている。また、2014 年から発行を開始した JPS Conference Proceedings を本年は 6 巻刊行した。

2014 年から交付されている科研費(国際情報発信強化)を有効活用し、JPSJ、JPS Conference Proceedings の国際学術雑誌としての認知度を高める広報活動を実施した。本年は科研費の中間評価を受けたが、A 評価という誇れるものであった。

2013 年に本格スタートした PTEP については今後も優れた論文が多数掲載されるようにより一層努力を続けると共に、支援機関獲得への働きかけを行った。これと並行して、2018 年 4 月の本科研費終了後の方策についてワーキンググループを立ち上げ財政状況の詳細な検討を行った。2018 年 4 月から、江口徹編集委員長が就任し、さらなる PTEP の発展に向けて取り組んでいる。

毎月発行している学会誌は、多岐にわたる物理学諸分野の最先端の成果や関連分野の情報を、専門分野外の会員にもわかりやすく解説する記事などを掲載し、会員相互理解と協力関係を培う目的で発行されている。そのため、今年度も、現代物理のキーワード、交流、解説、最近の研究から、実験技術などの記事を掲載した。また、物理教育は今、歴史の小径、話題、などで物理学に関するニュースや話題を取り上げて会員に情報提供した。会員の声欄では、会員からの意見等を掲載した。会合情報や人事公募情報、研究費公募情報なども掲載し、会員の教育研究活動を支援する情報も提供した。

### 3) 会友制度の導入

2017 事業年度において「会友に関する内規」が理事会において承認され、2017 年 10 月から正式に会友制度が開始されることとなった。これまでに正会員(大学院生)から退会してしまっていた人々への特別措置として 2017 年 12 月末日まで、今回に限り会友への登録を受け付けることとした。物理学会のホームページ上では 2017 年 5 月からバナーにより会友制度発足のアナウンスをして、周知を図った。2017 年 12 月時点で、特別措置による登録者 7 名を含む 29 名が会友として登録されている。今後の推移に注目していく必要がある。また、会員・会友へのサービスの充実へ向けて、メールマガジン等の導入の検討を開始した。現行の会員システムとの整合性も含めた検討が必要である。次のステップとして、高校生を対象としたジュニア会友制度の整備や学部学生会員への対応も検討課題となっている。

### 4) 学会活動を支える事務局・各種組織と財政基盤の整備

事務局運営委員会では、2016 事業年度において事務局職員の給与等の待遇に関して国家公務員のケースと比べて差異が大きいものを調査・検討し、2017 事業年度の始めに事務局職員に対する説明会を開いて、給与等の改訂方針を提示した。その骨子は、住宅手当の実額支給と 1 日当たりの勤務時間の 7 時間から 7 時間 15 分への延長、管理職手当の引き上げ、地域手当の引き上げ、の 4 項目である。住宅手当においては大きな影響がでるケースも考えられるので、3 年間の経過措置をとることとした。事務局職員との交渉はその後 2 回の説明会を経て 7 月までかかったが、大筋で合意に至ることができた。交渉の過程で職員側から要望・提案があった、フレックスタイム制の導入やリフレッシュ休暇取得については、導入のための規定等の改訂を検討した。また、やむなく職員が休日出勤となってしまう各種委員会・理事会、年次大会・秋季大会などの開催を平日にできないかという要望には可能な範囲で対応を呼びかけることとした。就業規則、給与規則、労使協定などの関連規定を見直し必要なものは付け足して、12 月の理事会で承認を受け、今回の改訂に対応してきた。2018 年 4 月からの実施を予定している。これをもって、事務局職員の給与等の国家公務員準拠という方針は概ね達成できたと認識している。

支部活動の支援及び支部との情報交換のため、年 1 回の支部長会議及び物理学会秋季大会(物性会場)での支部長懇談会を開催し、各支部の活動報告、役員名簿の確認、次年度予算事業計画の確認などを行った。支部役員については、単一の大学のメンバーだけで構成されることのないように依頼した。支部予算・支部活動は概ね計画どおりに実施された。

応用物理学会の移転に伴い8Fと5Fに分散していた物理学会の機能を5Fに集約したことで恒常経費である室料の節減が実現している。フロア変更に伴う突発的な支出も必要最小限に抑えられ、大幅な赤字決算となることは避けられた。2016事業年度における会費改定により財政の健全化が大きく進展したものの、一方で、会員数の減少、会誌広告等の減少は将来の収支バランスに対する不安要素であり、引き続き会計の分析と適切な対応を要する。また秋季大会を中心に大会個別での赤字傾向が継続していることから、大会参加登録料の見直しなど大会収支の健全化も必要である。そのため、第73回年次大会(2018年)より非会員参加登録費、2018年秋季大会より一般・学生会員の参加登録費の値上げを行うことを決定した。

#### 5) 国内外の学協会・団体との連携の強化と国際化

AAPPS (Association of Asia Pacific Physical Societies) については、2016年12月より新Presidentである中国のGui Lu Long氏の下、新たな期に入ったところであるが、物理学会よりは横山順一氏がsecretaryとして執行部に参画している。2017年4月7~8日には中国の西安にて、第35回 (extended) Council Meetingが開催された。今回は拡大版だったため、council memberに加え各メンバー学会の会長も参加、物理学会よりも会長が参加した。会議では、AAPPSの財政問題や、AAPPSを各メンバー国の物理学者により近い存在にするための方策などについて議論がされ、会費の値上げとともに、現在3つあるDivisionを今後拡張していく方向で検討を進めること等が決まった。これを受け、Long AAPPS会長より物理学会会長宛に、複数のDivisionを新設する提案とそのためのliaisonの人選依頼があった。物理学会では、AAPPS委員会が主体となって、応用物理学会や理事会とも密接にコンタクトを取りつつ本件の対応に当たることとし、領域や関連研究グループ等にアンケート調査を行った上で、今後の物理学会としての対応を具体化させることとなった。

2022年の第53回国際物理オリンピックが日本で開催されることを受け、国際物理オリンピック組織委員会 (IPhO, 小林誠委員長) が2016年5月よりスタートしている。IPhOからの要請により、11月15日 (水) 開催のIPhOの運営幹事会 (於東京理科大) に、物理学会より会長、担当理事、事務局長、事務局次長の4名が参加、2022年国際物理オリンピックへ向けてのIPhOと日本物理学会との今後の協力体制に関して相談を行った。また、物理オリンピック日本委員会 (JPhO) より物理学会宛に、従来JPhOを財政的に支えてきた国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) からJPhOへの支援金が今後段階的に減額されることを受け、物理学会への財政支援の要請があった。JPhOがこの減額に対応できる体制を作るまでの間、期間を区切った援助を行うことが相当であるとの判断により、対象年度は単年度毎とし物理チャレンジ開催費に用途を限定した上で、相応の額 (2018年度は40万円) の支援を行うこととなった。

学術会議関連としては、学術会議の軍事安全保障研究に関わる声明 (平成29年3月24日) を受けて、物理学会の軍事研究に関する従来の方針を確認した。

2016年に日本原子力学会が主導して立ち上げた「福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会」には、参加団体が増えて36団体となっている。本年も2回の全体会議と1回の情報交換会が開催されて、連携の強化が図られている。本会も引き続き情報交換を中心として活動に参加し、福島復興に貢献していく。また、日本学術会議における「放射線・放射能測定データアーカイブズワーキンググループ」にも引き続き委員を派遣して協力している。

物理学会と他学会との連携も今後の一つの方向であるが、本会と人工知能学会との協力へ向けての会合が、双方の会長・副会長を含めた関係者で2017年7月8日に行われた。今後の相互協力に向けた意見交換により、まずは相互にお互いの学会活動を双方の会員に周知してもらう試みについて同意した。この結果、両方の学会の会誌に企画記事を掲載する計画が現在会誌編集委員会を中心に進行中である。また、2018年物理学会年次大会の総合講演を人工知能学会の山田会長に依頼することとなった。

#### 6) 社会への物理学情報の発信力強化と学会活動の広報

科学セミナー、公開講座、市民科学講演会、Jr.セッションなどを例年通り実施した。科学セミナーにおいては、昨年同様の土日開催と参加費徴収を行ったが、2016年のノーベル物理学賞の内容に即した「トポロジーがひらく新しい科学」というテーマで多くの聴衆を集めて好評であった。公開講座は「物理で探る生物の謎」というテーマでこちらも多くの聴衆が参加した。これらの情報発信は引き続き行っていくことが望まれる。

HPの活用に関しては、ノーベル賞の受賞等、物理学に関する価値の高いニュースがあった場合に素早

い対応を行い、アクセスデータによってその効果を明らかにした。得られたデータ等をもとに、日本語版 HP についての改修計画に着手した。

会誌の広告掲載や大会・年会の企業展示について近年の低迷を検討し、新しい仲介業者との契約に切り替えて広告収入の増収に向けて取り組みを始めた。

2015 年にノーベル物理学賞受賞会員が 1 名増えたのでパンフレットの再改訂を行い、クリアファイルについて改訂すると共に、113 番元素を記念したクリアファイルも新しく作成した。パンフレットやクリアファイルは、科学セミナー等で配布を行い、広報活動に有効に用いられた。

## 7) 物理学関連の教育、人材活用・支援を通じた社会連携

キャリア支援については、「理工系（物理関連分野）人材のためのキャリアフォーラム」を例年通り 2 回開催、また「私立中高向け理系教員選考会」については九州地区、関東地区、関西地区で開催した（計 3 回の開催）。

中高校生の物理学への興味をより促進させるための Jr. セッションは、盛況が続いている。2016 年に応募が 100 件を超えた際に、すべてポスター発表とすることにしたが、2017 年は応募が大幅に 100 件を超え、第 1 次審査によってポスター発表数を 100 件に絞った。一方、運営経費が膨らんでおり、安定的運営のための資金源探索が必要である。核物理領域で行っている学部生ポスター発表については、パイロット事業として継続中である。

大学における物理教育の充実を図るために、昨年に引き続き「大学の物理教育」を年 3 回発行した。大学の物理教育編集委員会の規程を制定し、2018 年 4 月から担当理事が編集委員会に参加して、これまでに以上に理事会と編集委員会の連携を密にする体制を整えた。

他の学協会と連携して物理教育の一層の充実を図るために、昨年に引き続き物理教育シンポジウムを日本物理学会と共同開催し、今年にはアクティブラーニングと深い学びをテーマとして議論を行った。

日本物理学会の理事 1 名が物理オリンピック日本委員会(JPh0)の理事を兼務し、JPh0 との連携を進めた。また、日本物理学会は JPh0 に団体会員として参加しており、年一度の JPh0 通常総会に物理学会会長が出席した。JPh0 は、全国の物理が好きな中高生を対象としたコンテスト形式の物理チャレンジを行っており、これは国際物理オリンピックの国内予選を兼ねている。また、2022 年に日本で開催される国際物理オリンピック IPhO2022 の組織委員会に、物理学会会長が委員として加わっている。さらに、組織委員会の下部組織である実行委員会に物理学会の理事が 1 名加わり、物理学会として国際物理オリンピックに協力する体制を整えた。

男女共同参画推進活動として、男女共同参画学協会連絡会に委員を送り、アンケートの解析等を行いその結果を発表した。また、物理学会の会員の会員登録を過去に遡って解析することで、女性は物理学会入会から 15 年程度の期間中に物理学会を退会する率が男性より高く、女性が物理学会会員に長期的に残る率は男性の 7 割程度であるということが明らかになった。出産育児等の女性特有の負担や、女性採用に対するバイアスなどが背景にあると考えられる。この解析結果は、GS10 のポスターセッションや、IUPAP が主催する Women in Physics で発表し、さらなる解析を付け加えて物理学会誌にも発表する予定である。また 3 月には物理学会年会においてシンポジウム「ジェンダー平等・ダイバーシティの拡大 ～日本物理学会男女共同参画委員会の 15 年の活動を振り返って～」を開催した。シンポジウム形式で行う企画は今回で最後とし次回の学会ではランチョンミーティングを行うことを予定している。

物理学会の年次大会等では世話人を主体とする託児室の設置が行われてきたが、この方式を終了する必要が生じているため、今後の設置方法についての検討を行った。また次世代育成活動として、女子中高生夏の学校 2017 の企画、運営、参加を行った。

国際活動については、日本物理学会と応用物理学会における男女共同参画関連国際活動連絡会としての活動を軸とし、GS10(東京で開催)、IUPAP women in physics へ参加し、上記の活動報告を行った。また男女共同参画推進室だよりとして、Athena Program で日本に来訪した女性研究者について報告を行った。また国内の学協会との協力は学協会連絡会を通じて行っており、来年度の幹事校となることが決定された。

急速に悪化しつつあると言われる会員の研究環境を調査することを目的として研究費配分に関する教育研究環境検討委員会において、来年度のアンケート調査等の検討をおこない、来年 6 月ごろに実施することを決定した。

8) 大会のあり方の検討と充実

シンポジウム企画の自由度拡大、他分野との交流による物理学分野全体の活性化を目指して、研究コンソーシアムと物理学会との共催によるシンポジウム枠を大会中に設けた。第 73 回年次大会(2018 年)より実施される。

出展数が漸減傾向にあった企業展示会について、委託業者を変更し、拡充を図ることとなった。

学生による発表の活性化、充実を図るため学生優秀発表賞を制定した。2018 年秋季大会より授賞を開始する。

会員間の親睦、情報交換、学会運営に対する意見聴取などのために大会中の懇親会開催を検討している。初回は運営に近い役職の会員に案内をし、第 73 回年次大会(2018 年)より試験的に実施する。

大会中に web 掲載している概要について、一括ダウンロードを行う参加者によってサーバーの負荷が増大し表示に問題が生じる現象が起こっており、対策を検討中である。現在技術的な問題により非公開状態になっている過去の概要集について、NII から J-Stage へのデータ移行により web 公開できる見通しとなった。

大会経営は慢性的な赤字が続いており、事業全体を圧迫している。会場費その他の節約も限界であり、参加登録費の改定を行わざるを得ない情勢である。検討の結果、将来の収支均衡も視野に、第 73 回年次大会(2018 年)より非会員一般参加登録費、2018 年秋季大会より一般・学生会員の参加登録費の値上げを行うこととなった。

2. 各事業詳細資料

2-1. 学術講演会の開催・後援等	
2-1-1-1. 第 72 回年次大会	<p>開催領域：素粒子論領域、素粒子実験領域、理論核物理領域、実験核物理領域、宇宙線・宇宙物理領域、ビーム物理領域、領域 1～13、物理と社会</p> <p>会期：3 月 17 日（金）～ 20 日（月）</p> <p>会場：大阪大学 豊中キャンパス（大阪府豊中市待兼山町 1）</p> <p>講演数：3,976 件</p> <p>内訳：原著講演 3,716 件、シンポジウム講演 189 件、招待・企画・チュートリアル講演 28 件、日本物理学会若手奨励賞受賞記念講演 41 件、総合講演 2 件*）</p> <p>参加登録者数：5,827 名</p> <p>内訳： 会 員：5,604 名（一般 3,443 名、学生・院生 2,161 名） 非会員：223 名（一般 96 名、学生・院生 127 名）</p> <p>託児室：6 家族 8 名（延べ 16 名）</p> <p>*総合講演</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西森秀稔（東京工業大学理学院） 「量子アニーリング」</li> <li>・大栗博司（カリフォルニア工科大学・東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構） 「量子重力理論」</li> </ul>
2-1-1-2. 秋季大会	<p>【素粒子、核物理、宇宙線・宇宙物理領域関係大会】</p> <p>会期：9 月 12 日（火）～15 日（金）</p> <p>会場：宇都宮大学峰キャンパス（栃木県宇都宮市峰町 350）</p> <p>講演数：965 件</p> <p>内訳：原著講演 913 件、シンポジウム講演 32 件、招待・企画講演 20 件</p> <p>参加登録者数：1,325 名</p> <p>内訳： 会 員：1,274 名（一般 765 名、学生・院生 509 名）</p>

	<p>非会員：51名（一般17名、学生・院生34名） 託児室：2家族4名（延べ12名）</p> <p><b>【物性領域関係大会】</b> 会期：9月21日（木）～24日（日） 会場：岩手大学上田キャンパス（岩手県盛岡市上田3-18-8） 講演数：2,584件 内訳：原著講演2,508件、シンポジウム講演68件、招待・企画・チュートリアル講演8件 参加登録者数：3,353名 内訳：会員：3,242名（一般1,929名、学生・院生1,313名） 非会員：111名（一般29名、学生・院生82名） 託児室：5家族5名（延べ11名）</p>
2-1-2. 各種国内会議	134件の国内会議の共催・協賛・後援を行なった。
2-2. 国際交流・協力活動	
2-2-1. 国際会議の共催	本年は国際会議の共催は行わず、20件の国際会議の協賛・後援等を行った。
2-2-2. その他の国際活動	<p>●AAPPS（アジア・太平洋物理学連合）メンバー学会としての活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AAPPS委員会の開催（日本物理学会・応用物理学会合同）</li> <li>・AAPPS 拡大理事会への会長及び委員派遣</li> <li>・AAPPS Bulletin 編集委員会への委員派遣</li> <li>・AAPPS Bulletin 編集委員会会議のWeb会議開催の協力</li> <li>・会誌・HPへのAAPPS活動の掲載</li> </ul> <p>●APS March Meeting 2017 ブース出展（3月）</p> <p>●海外からの投稿者へのJPSJ掲載料金援助（一部）</p>
2-3. 物理学に関する普及・啓発活動	
2-3-1. 科学セミナー	<p>企画名：トポロジーがひらく新しい科学 会期：8月19日（土）、20日（日） 会場：東京大学駒場キャンパス 数理科学研究科棟 大講義室 演題：誰もが使う数学用語「トポロジー」 外9件 聴講料：一般2,000円、学生証提示で1,000円 聴講者数：188名（8/19）、152名（8/20） ※講師より許可された講演はビデオ撮影し、講演動画を本会会員および参加者にのみ限定公開した。</p>
2-3-2. 公開講座	<p><b>【理事会企画】</b> 企画名：物理で探る生物の謎 会期：11月4日（土） 会場：東京大学本郷キャンパス伊藤謝恩ホール 演題：分子動力学シミュレーションで探るタンパク質の形と動き 外2件 聴講料：無料 聴講者数：286名 ※講師より許可された講演はビデオ撮影し、講演動画を本会ホームページ上で公開予定。</p>
2-3-3. 第13回 Jr. セッション（2017） （主に高校生による講演発表会）	<p>期日：3月18日（土） 場所：大阪大学豊中キャンパス 大阪大学会館（第72回年次大会年次大会会場） 講演発表数：100件</p>

<p>2-3-4-1. 年次大会市民向け 講演会</p>	<p>第 72 回年次大会 (2017 年) (大阪大学豊中キャンパス)        期日 : 3 月 19 日 (日) 13:30~16:10        場所 : 池田市民文化会館 (アゼリアホール)        入場料 : 無料        プログラム :          宇宙と素粒子の新しいトビラをひらく            橋本幸士 (大阪大学大学院理学研究科教授) 「超ひも理論でひらく時空のトビラ」            梶田隆章 (東京大学宇宙線研究所長) 「重力波とニュートリノでひらく宇宙のトビラ」        参加者数 : 約 500 名</p>
<p>2-3-4-2. 秋季大会市民向け 講演会</p>	<p>【秋季大会 (宇都宮大学)】        期日 : 9 月 18 日 (月祝) 13:30~16:00        場所 : 栃木県総合文化センター メインホール        入場料 : 無料        プログラム :          宇宙と素粒子でひもとく世界            梶田 隆章 (東京大学宇宙線研究所長) 「宇宙と素粒子の謎への挑戦 ~ “スーパーカミオカンデ” と “かぐら” ~」            村山 斉 (東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構長) 「宇宙の誕生、進化と未来を探る新しい目 ~ ニュートリノ、重力波、加速器 ~」        参加者数 : 約 1,000 名</p> <p>【秋季大会 (岩手大学)】        期日 : 9 月 24 日 (日) 13:00~15:15        場所 : アイーナ小田島組☆ほ〜る        入場料 : 無料        プログラム :            鈴木 厚人 (岩手県立大学長) 「宇宙の謎を解き明かす国際リニアコライダー」            前野 悦輝 (京都大学教授) 「電子が凍る！」        参加者数 : 約 100 名</p>
<p>2-3-5. その他</p>	<p>●物理教育シンポジウム        企画名 : アクティブラーニングで深い学びが得られるか        会期 : 3 月 5 日 (日)        会場 : 東京大学本郷キャンパス 小柴ホール        演題 : 対話による深い学び主体的学びは可能か 外 2 件 (3 件の講演に引き続き総合討論を行った)        聴講料 : 無料        聴講者数 : 146 名</p> <p>●第 22 回日本物理学会論文賞        5 編の論文を表彰した。        受賞論文の代表者にはケース入り賞状と賞状の電子ファイルを贈呈した。</p> <p>●日本物理学会論文賞特別表彰        日本の科学史初の快挙と貢献を称え、113 番元素研究グループを表彰した。</p>

	<p>受賞グループの代表者にはケース入り賞状を贈呈した。</p> <p>●第 11 回日本物理学会若手奨励賞 41 名の受賞者を決めた。 授賞者にはケース入り賞状を贈呈した。</p> <p>●自然の不思議 — 物理教室 主催：日本物理学会・日本物理教育学会・国立科学博物館 開講日（計 6 回）：6 月 3 日（土）、6 月 17 日（土）、7 月 9 日（日）、 7 月 22 日（土）、8 月 19 日（土）、8 月 26 日（土） 講座名：星までの距離 外 5 回 場所：国立科学博物館（上野本館 地球館 3 階実験実習室） 対象：小学 5 年生～一般 ※各回の教室の様子や実験の一部を、写真付きで本会ホームページに公開した。</p> <p>●世田谷区中学生講座（才能の芽を育てる体験学習：サイエンス・ドリーム） 主催：世田谷区教育委員会（当会は協賛） 開講日（計 2 回）：7 月 25 日（火）、7 月 26 日（水） 講座名：光を分けてみよう！ 外 1 回 （両日とも 2 講座を実施した。） 場所：国立大学法人 電気通信大学 対象：世田谷区立中学校の生徒 ※当会物理教育委員会・委員が講師を務めた。 ※各回の教室の様子や実験の一部を、写真付きで本会ホームページに公開した。</p> <p>●基礎実験講習会（高校物理の授業に役立つ基本実験講習会：東京会場） 主催：物理教育研究会（APEJ）、日本物理学会 共催：日本物理教育学会 協賛：応用物理学会、学術図書出版社 会期：7 月 16 日（日）～7 月 17 日（月・祝） 会場：麻布高等学校 実験項目：運動の法則 外 9 項目 対象：現職の物理（理科）教員、物理（理科）教員を志望する学生 他 ※本会支部（北海道支部、東北支部、新潟支部、大阪支部、四国支部、九州支部）においても日本物理教育学会、物理教育研究会（APEJ）他との共催等により各地で開催した。</p>
2-4. 本会の目的達成のために重要な活動	
2-4-1. キャリア支援センター	<p>物理系人材の活躍の場を社会の多方面に広げていくための諸活動を行った。以下にセンターが行ったキャリア支援イベントを挙げる。</p> <p>● 理工系（物理関連分野）人材のためのキャリアフォーラム 1 月 21 日（土）於 大阪大学理学部（参加者約 40 名） 2 月 4 日（土）於 東京大学理学部（参加者約 70 名）</p> <p>前半でキャリアガイダンスとして物理系人材が社会で活躍するにあたって参考となる講演を 2 件行い、後半では数社の企業の代表者に理系人材がそこでどのように活躍しているかを紹介してもらった。その後、質疑応答時間を十分にとり、参加者の今後のキャリア開発の</p>

	<p>参考とした。 (2018年の開催予定: 2月3日(土) 東京大学, 2月10日(土) 大阪大学)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 私立中高向け「理系教員選考会」 <ul style="list-style-type: none"> <li>1月8日(日) 於 お茶の水女子大学理学部 (参加者約100名)</li> <li>1月22日(日) 於 神戸大学 百年記念館 (参加者約40名)</li> <li>12月10日(日) 於 九州大学 箱崎キャンパス (参加者13名)</li> </ul> </li> </ul> <p>教員志望の理系人材のために、2017年春(12月のイベントは2018年春)からの採用をめざして私立の中高の担当者と理系人材が直接面談する機会を設けた。 (2018年の開催予定: 1月7日(日) お茶の水女子大学、1月21日(日) 神戸大学)</p> <p>これらのイベント以外には、Web やメールを通じたキャリア支援関連情報の広報活動を行った。また、人工知能学会関係者と意見交換し、今後両学会で連携協力して行える活動について協議する機会を設けた。</p>
2-4-2. 協力活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「日本技術者教育認定機構(JABEE)」関係 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ JJABEE 物理・応用物理学関連分野における2017年度新規認定審査を実施</li> <li>・ JABEE 理事、認定・審査調整委員会、審査事務連絡会、拡大運営委員会の各委員等を派遣</li> </ul> </li> <li>● 男女共同参画関係 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学会誌の「男女共同参画推進委員会だより」で広報活動を実施</li> <li>・ シンポジウム「ジェンダー平等・ダイバーシティの拡大 ～日本物理学会男女共同参画委員会の15年の活動を振り返って～」(日本物理学会年次大会)開催</li> <li>・ 女子中高生夏の学校2017の企画、運営、および参加</li> <li>・ 第15回男女共同参画学協会連絡運営委員会とシンポジウム参加</li> <li>・ GS10、IUPAP Women in Physics(バーミンガム)参加</li> </ul> </li> <li>● 受賞候補等推薦委員会関係 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第14回(平成29年度)日本学術振興会賞、2017年度山田科学振興財団研究援助、平成30年度文部科学大臣表彰若手科学者賞、第34回(2017年度)井上賞、第39回(平成29年度)本多記念研究奨励賞、第58回(平成29年度)東レ科学技術賞、第38回猿橋賞、第59回藤原賞、第58回(平成29年度)東レ科学技術研究助成の各賞・助成に候補者を推薦</li> </ul> </li> <li>● その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定非営利活動法人物理オリンピック日本委員会理事派遣</li> </ul> </li> </ul>
2-4-3. 物理系学術誌刊行センター(PCPAP)	<p>応用物理学会と協同して運営を行った。</p>
2-4-4. 支部活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2017年秋季大会岩手大会会場にて支部長懇談会(9月23日)を、本会事務局会議室にて支部長会議(6月29日)を開催した。</li> <li>● 支部例会、支部特別企画等 次のとおり、各支部において適宜開催した(支部主催事業等、主な事業を記載)。</li> </ul>

**【北海道支部】**

・役員会

…会期：12月14日(木)、会場：北海道大学

・北海道支部講演会(計7回)

…会期：10月23日(月)／10月27日(金)／11月8日(水)／  
11月10日(木)／11月27日(月)／12月18日(月)／12月25  
日(月)、会場：北海道大学

・高校物理の授業に役立つ基本実験講習会 in 北海道

…会期：1月10日(水)、会場：札幌北高等学校、参加者数：40  
名、主催：日本物理教育学会北海道支部／日本物理学会北海  
道支部

**【東北支部】**

・役員会

…会期：10月10日(火)、会場：東北大学

・出前授業(計9回)

…会期：2月18日(土)／5月3日(水)／5月27日(土)／6月20日  
(火)／7月10日(月)／10月17日(月)／10月30日(月)／11月  
7日(火)／12月6日(水)、会場：宮城学院高等学校／福島県高  
等学校文化連盟自然科学専門部／宮城県立宮城野高等学校／秋  
田県立秋田南高等学校／宮城県立白石高等学校／宮城県立石巻  
高等学校／東北学院榴ヶ岡高等学校／仙台市立仙台青陵中等教  
育学校／宮城県立仙台第一高等学校

・高校物理の授業に役立つ基本実験講習会 in 東北(秋田)

…会期：12月2日(土)、会場：秋田県立秋田高等学校、主催：  
日本物理教育学会東北支部、共催：日本物理学会東北支部／物  
理教育研究会(APEJ)、後援：秋田県高等学校教育研究会理科部  
会／学術図書出版社

・学都仙台宮城サイエンスデイ 2017

…会期：7月16日(日)、場所：東北大学川内キャンパス、参加  
者数：10,580名、主催：特定非営利活動法人 natural  
science、共催：日本物理学会東北支部／東北大学／仙台市教  
育委員会／他10団体、協賛：株式会社ユーメディア／一般財  
団法人みやぎ産業科学振興基金、後援：文部科学省／宮城県／  
仙台市／宮城県教育委員会／他52団体

**【新潟支部】**

・役員会

…会期：12月9日(土)、会場：日本歯科大学 新潟生命歯学部

・新潟支部例会

…会期：12月9日(土)、会場：日本歯科大学 新潟生命歯学部、  
参加者数：83名

・高校物理の授業に役立つ基本実験講習会

…会期：11月26日(日)、会場：新潟大学駅南キャンパス ときめ  
いと、参加者数：12名、主催：物理教育研究会(APEJ)／日本物  
理学会新潟支部／新潟大学／新しい理科教育を研究する会、共  
催：日本物理教育学会、後援：学術図書出版社／新潟県高等学  
校教育研究会理科部会／新潟県理化学協会

**【北陸支部】**

・役員会(計2回)

…会期：7月30日(日)／12月2日(土)、会場：富山大学／福井大

学

・支部総会

…会期：12月2日(土)、会場：福井大学文京キャンパス、参加者数：約30名

・北陸支部定例学術講演会

…会期：12月2日(土)、会場：福井大学文京キャンパス、参加者数：170名、主催：日本物理学会北陸支部、協力：福井大学

・特別講演会(計4回)

…会期：1月25日(水)／5月8日(月)／6月1日(木)／12月14日(木)、会場：福井大学／富山大学理学部／金沢大学

【名古屋支部】

・定例打ち合せ会(支部委員会)

…会期：12月9日(土)、会場：名古屋大学

・市民講演会「物理学とはなんだろう」シリーズ

…テーマ「小林益川理論では説明できない現象を探る - いよいよ始まる SuperKEKB/Belle II 実験」、会期：12月9日(土)、会場：名古屋大学、参加者数：79名、主催：日本物理学会名古屋支部、後援：名古屋市教育委員会／愛知県教育委員会／岐阜県教育委員会／三重県教育委員会／名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構

・中部表面科学シンポジウム

…テーマ：「将来の自動車に向けた表面科学」、会期：1月28日(土)、会場：名古屋工業大学、参加者数：100名、主催：日本表面科学会、協賛：応用物理学会東海支部／日本真空学会東海支部／日本物理学会名古屋支部／応用物理学会薄膜・表面物理分科会／自動車技術会

【京都支部】

・役員会

…会期：8月27日(日)、会場：京都大学

・親子理科実験教室(計4コース、計9回)

…テーマ：「見える？見えない？電磁波ってなんだろう」／「今日からみんな力持ち？～小さな体・大きな力～」他、会期：4月23日(日)／6月4日(日)／7月9日(日)／5月21日(日)／6月25日(日)／7月23日(日)／8月5日(土)-6日(日)／8月19日(土)-20日(日)／12月23日(土)、会場：京都大学理学部セミナーハウス、参加者数：各日約40名、主催：NPO 法人あいんしゅたいん／日本物理学会京都支部

・おもしろ算数塾(計5回)

…テーマ：「知らなきゃ損・・・生活に役立つ統計」他、会期：1月8日(日)／1月9日(月)／2月12日(日)／10月15日(日)／11月26日(日)、会場：京都大学理学部セミナーハウス、参加者数：各日30名、主催：NPO 法人あいんしゅたいん／日本物理学会京都支部

・市民講座「物理と宇宙」第5回

…会期：10月15日(日)、会場：京都大学百周年時計台記念館(大ホール)、参加者数：約330名、主催：京都大学大学院理学研究科物理学・宇宙物理学専攻／京都大学基礎物理学研究所、共催：日本物理学会京都支部、後援：京都新聞／京都市教育委員会／京都府教育委員会／滋賀県教育委員会

- ・シンポジウム「科学としての科学教育」  
 …会期：12月10日（日）、会場：ルイパスツール研究所、参加者数：45名、主催：NPO 法人あいんしゅたいん／日本物理学会京都支部
- 【大阪支部】
- ・大阪支部懇談会（計2回）  
 …会期：4月7日（金）／5月22日（月）、会場：大阪大学／大阪市立大学
- ・支部講演会（計5回）  
 …会期：1月31日（火）／3月13日（月）／4月19日（水）／10月27日（金）／11月13日（月）、会場：大阪大学／大阪市立大学／大阪電気通信大学／スプリング8「萌光館」
- ・大阪支部公開シンポジウム  
 …テーマ：「量子力学90年」、会期：12月23日（土）、会場：大阪大学中之島キャンパス 佐治敬三ホール、参加者数：244名、主催：日本物理学会大阪支部、後援：日本物理教育学会近畿支部／兵庫県教育委員会／大阪府教育委員会／和歌山県教育委員会／大阪市教育委員会
- ・ふしぎと遊ぼう！ 青少年のための科学の祭典2017大阪大会 サイエンスフェスタ  
 …テーマ：「科学・技術と私たちの暮らし～防災・安全・環境・エネルギー～」、会期：8月19日（土）～20日（日）、会場：梅田・ハービスホール、参加者数：8/19（土）約12,000名／8/20（日）約12,000名、主催：「青少年のための科学の祭典」大阪大会実行委員会／日本科学技術振興財団・科学技術館／日本物理教育学会近畿支部／日本物理学会大阪支部／大阪市教育委員会／大阪市立科学館／関西サイエンス・フォーラム／読売新聞社／大阪科学振興協会、後援：文部科学省／大阪府教育委員会他
- ・高校物理の授業に役立つ基本実験講習会（滋賀会場）  
 …会期：12月3日（日）、会場：滋賀県立石山高等学校、主催：日本物理教育学会近畿支部／日本物理学会大阪支部
- 【中国支部】
- ・役員会（計2回）  
 …会期：6月30日（金）／9月25日（月）、会場：メール会議
- ・応用物理・物理系学会中国四国支部合同学術講演会  
 …日時：7月29日（土）、会場：愛媛大学城北キャンパス、主催：応用物理学会中国四国支部／日本物理学会中国支部・四国支部／日本物理教育学会中国四国支部／日本光学会中国・四国・九州支部
- ・第21回物理教育研究会  
 …日時：2月18日（土）、会場：広島大学東千田未来創生センター、主催：広島県物理教育研究推進会、後援：広島県高等学校教育研究会理科部会物化部／日本理科教育学会中国支部／日本物理学会中国支部／日本物理教育学会中国四国支部／公益社団法人日本理科教育振興協会
- ・サイエンスワールド 2017「さあ来い！アーティスティック・サイエンスフェスタ」  
 …日時：11月12日（日）、会場：山口大学、参加者数：1000人以上、主催：山口大学理学部、協力：山口大学教育学部理科講

	<p>座、後援：情報処理学会中国支部事務局／電子情報通信学会中国支部／中国四国植物学会／日本物理学会中国支部 他</p> <p><b>【四国支部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・役員会（兼総会） …会期：7月29日（土）、会場：愛媛大学</li> <li>・応用物理・物理系学会中国四国支部合同学術講演会 …詳細は中国支部と同内容</li> <li>・学術講演会 …会期：10月25日（火）、会場：高知大学、参加人数：17名、主催：日本物理学会四国支部</li> <li>・高校物理の授業に役立つ基本実験講習会 in 高松 2017 …会期：12月2日（土）、会場：高松第一高等学校、参加人数：33名、主催：基本実験講習会 in 高松実行委員会、共催：物理教育研究会（APEJ）／日本物理学会四国支部／日本物理教育学会中国四国支部、後援：香川県高等学校教育研究会理化部会</li> </ul> <p><b>【九州支部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・役員会（計2回） …会期：2月6日（月）／12月9日（土）、会場：九州大学／鹿児島大学</li> <li>・支部例会 …会期：12月9日（土）、会場：鹿児島大学 郡元キャンパス、参加人数：130名、主催：日本物理学会九州支部、共催：日本物理教育学会九州支部／鹿児島大学</li> <li>・特別講演会 …会期：12月9日（土）、会場：鹿児島大学 郡元キャンパス、演題：「非従来型の超伝導」、参加人数：約100名、主催：日本物理学会九州支部</li> <li>・高校物理の授業に役立つ基本実験講習会 （第8回高校物理の授業に役立つ基本実験講習会 in 福岡） …会期：11月23日（木・祝）、会場：西南学院高等学校、参加人数：39名、主催：福岡県高等学校物理部会／日本物理学会九州支部／日本物理教育学会九州支部、共催：物理教育研究会（APEJ）／科学教育ネットワーク in 福岡／NPO 法人理科カリキュラムを考える会</li> <li>・物理教育学会九州支部総会および研究大会 …会期：3月4日（土）、会場：大分大学、主催：日本物理教育学会九州支部、共催：大分大学／日本物理学会九州支部、後援：大分県教育委員会／大分市教育委員会</li> </ul>												
2-4-5. 情報・資料公開	<ul style="list-style-type: none"> <li>●図書雑誌および物理学史資料の供覧 必要に応じて実施した。</li> <li>●会誌の寄贈交換：国内、国外</li> </ul>												
2-5. 刊行物（実施事業を含む）													
2-5-1. 日本物理学会誌	<p><b>【公益目的支出計画実施事業】</b> 第72巻第1号～12号を刊行した。A4冊子版、月刊、</p> <table border="1" data-bbox="576 1890 1177 2033"> <thead> <tr> <th></th> <th>総数</th> <th>月平均</th> <th>月予定数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ページ数</td> <td>1,140</td> <td>95</td> <td>99</td> </tr> <tr> <td>刊行部数</td> <td>201,520</td> <td>16,793</td> <td>16,900</td> </tr> </tbody> </table>		総数	月平均	月予定数	ページ数	1,140	95	99	刊行部数	201,520	16,793	16,900
	総数	月平均	月予定数										
ページ数	1,140	95	99										
刊行部数	201,520	16,793	16,900										

	【特別購読数】国内：232 国外：3												
2-5-2. JOURNAL OF THE PHYSICAL SOCIETY OF JAPAN (JPSJ)	<p>Vol. 86 No.1~No.12 を刊行した。A4 冊子及び電子版。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>総数</th> <th>月平均</th> <th>月予定数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ページ数</td> <td>3028</td> <td>252</td> <td>224</td> </tr> <tr> <td>冊子刊行部数</td> <td>4,640</td> <td>386</td> <td>400</td> </tr> </tbody> </table> <p>【掲載論文】 Letter 97, Full Paper 296, Short Note 20, Addenda 1, Comments &amp; Reply 1, Erratum 7, Invited Paper 2, Special Topics 25 【電子版の2017年1月-12月論文総ダウンロード数 359,950】 【電子版ダウンロード、国内外の比率】国内45%、海外55% 【特別購読数】国内 147 (オンライン版 60、冊子版 87 ) 国外 353 (オンライン版 221、冊子版 132 )</p>		総数	月平均	月予定数	ページ数	3028	252	224	冊子刊行部数	4,640	386	400
	総数	月平均	月予定数										
ページ数	3028	252	224										
冊子刊行部数	4,640	386	400										
2-5-3. PROGRESS OF THEORETICAL AND EXPERIMENTAL PHYSICS (PTEP)	<p>Volume 2017 Issues 1~12 を電子版で発行した。 掲載論文数：Paper 158 Letter 17 Errata・Addenda 2 特集論文・招待論文 8 【電子版の2017年1月-12月論文総ダウンロード数】 110,984</p>												
2-5-4. JPS Conference Proceedings	<p>Vol. 13 Proceedings of the 14th International Conference on Meson-Nucleon Physics and the Structure of the Nucleon (MENU2016) e-ISBN: 978-4-89027-117-7、81 論文 Vol. 14 Proceedings of the 14th International Symposium on Nuclei in the Cosmos (NIC2016) e-ISBN: 978-4-89027-118-4、192 論文 Vol. 15 Proceedings of the 7th International Workshop on Very High Energy Particle Astronomy in 2014 (VHEPA2014) e-ISBN: 978-4-89027-120-7、13 論文 Vol. 16 Proceedings of the Asia-Pacific Econophysics Conference 2016 -Big Data Analysis and Modeling toward Super Smart Society-(APEC-SSS2016) e-ISBN: 978-4-89027-121-4、17 論文 Vol. 17 Proceedings of the 12th International Conference on Hypernuclear and Strange Particle Physics (HYP2015) e-ISBN: 978-4-89027-122-1、122 論文 Vol. 18 Proceedings of the 12th International Conference on Low Energy Antiproton Physics (LEAP2016) e-ISBN: 978-4-89027-125-2、46 論文 【電子版の2017年1月-12月論文総ダウンロード数 36,308】 【電子版ダウンロード、国内外の比率】国内 38%、海外 62%】</p>												
2-5-5. 講演概要集	<p>第72回年次大会(第72巻第1号) (全領域掲載) Web版 2017年3月1日から1年間公開 DVD版 1,500部 ※ほかに年次大会のプログラムとして3月増刊号165ページ(本文)17,778部を刊行した。</p> <p>2017年秋季大会(第72巻第2号) (全領域掲載) Web版 2017年9月1日から1年間公開 DVD版 1,300部</p>												

	※ほかに秋季大会のプログラムとして8月増刊号149ページ(本文)17,090部を刊行した。
2-5-6. 大学の物理教育 (B5判)	第23巻1号(3月)、2号(7月)、3号(11月)を刊行 各号の刊行部数1,2,3号1,600部 年間総ページ数192ページ

(附属明細1) 処務詳細資料  
総会・役員会等に関する事項

3-1-1. 総会 (開催日)	第97回定時総会 (3月31日)
3-1-2. 監事会 (開催日)	2月18日
3-1-3. 理事会等 (開催日)	<p>●理事会 1月14日 2月18日 3月10日 3月31日 4月15日 5月13日 6月10日 7月8日 8月5日 9月9日 10月14日 11月11日 12月9日</p> <p>●会計理事会議 2月13日 4月26日</p> <p>●予算編成ワーキンググループ会議 8月5日 10月30日</p> <p>●会員・会友ワーキンググループ 1月31日 4月18日 12月1日</p> <p>●社会連携検討ワーキンググループ 4月17日 5月20日 6月1日 6月24日 7月7日 8月3日 10月2日 10月13日 12月21日</p> <p>●日本物理学会・応用物理学会情報交換会 3月27日</p>
3-1-4. 委員会等 (開催日)	<p>●刊行委員会 1月13日 3月6日 4月24日 6月13日 9月7日 11月8日</p> <p>●会誌編集委員会 1月21日 2月25日 3月25日 4月8日 5月20日 6月24日 7月15日 8月19日 9月16日 10月21日 11月18日 12月16日</p> <p>●新著紹介小委員会 1月18日 3月22日 5月24日 7月5日 9月27日 11月8日</p> <p>●JPSJ編集委員会 1月11日 2月9日 3月9日 4月11日 5月15日 6月12日 7月12日 8月10日 9月15日 10月17日 11月15日 12月12日</p> <p>●第2期 JPSJ 将来計画検討ワーキンググループ 3月9日 4月20日 6月1日 7月18日 9月8日 12月12日</p> <p>●PTEP編集委員会 2月21日 5月10日 7月14日 10月10日</p> <p>●受賞候補等推薦委員会 2月6日 7月21日 9月19日</p> <p>●物理教育委員会 1月27日 3月5日 6月5日 8月28日 10月6日</p> <p>●大学の物理教育編集委員会 1月21日 2月17日 2月24日 5月13日 6月10日 6月24日 8月24日 9月16日 10月14日 10月28日</p> <p>●男女共同参画推進委員会</p>

	<p>3月3日 4月29日 9月11日</p> <p>●日本物理学会と応用物理学会における男女共同参画関連国際活動連絡会</p> <p>10月10日</p> <p>●領域委員会</p> <p>5月16日 11月14日</p> <p>●事務局運営委員会</p> <p>2月17日 3月10日 4月15日 6月10日 9月9日 10月14日 11月24日 (その他メール審議2回)</p> <p>●AAPS委員会</p> <p>6月19日 11月15日</p> <p>●選挙管理委員会</p> <p>3月6日 6月6日</p> <p>●物理学史資料委員会</p> <p>4月22日 9月4日 12月2日</p> <p>●Jr.セッション委員会</p> <p>2月4日 5月29日</p> <p>●第22回日本物理学会論文賞選考委員会</p> <p>2月8日</p> <p>●広報委員会・HP運営小委員会合同委員会</p> <p>2月2日 9月7日 (その他メール審議1回)</p> <p>●研究費配分に関する教育研究環境検討委員会</p> <p>7月3日 11月7日</p>
--	---

契約・入札・他に関する事項

● 主な新規契約に関する事項

契約月日	相手方	契約の種類等	期間等
2017/2/6	カクタス・コミュニケーションズ(株)	業務委託(英文校閲)	2017/4/1~2019/3/31
2017/5/18	(株)中山書店	賃貸契約	2017/8/1~2018/2/28
2017/11/13	(株)日刊工業コミュニケーションズ	業務委託(会誌広告)	2018/1/1~2018/12/31
2017/11/13	(株)日刊工業コミュニケーションズ	業務委託(大会附設展示会)	2018/3/1~2019/2/28
2017/11/14	(株)大塚商会	サーバー保守	2017/12/1~2018/11/30
2017/11/20	アイ・ペアーズ(株)	業務委託(WEBサイト)	2017/11/20~2018/3/31

●入札に関する事項(なし)

●許可、認可および承認に関する事項(なし)

●その他の事項

- ・ 第 73～74 期代議員選挙を行った。
- ・ 応用物理学会と「物理系学術誌刊行センターに関する協定書」を取り交わした。

(附属明細 2) 会員の異動状況

会員種別	会 員 数		増 減
	2016 年 12 月 31 日現在	2017 年 12 月 31 日現在	
正会員	16,442 <sup>1)</sup> (内：大学院生数 3,002)	16,084 <sup>2)</sup> (内：大学院生数 2,901)	-358 (内大学院生数-101)
学部学生会員	190	167	-23
賛助会員	89(202 口)	87(194 口)	-2(-8 口)
計	16,721	16,338	-383

- 1) うち名誉会員 20、シニア会員 712。  
 2) うち名誉会員 21、シニア会員 762。

(附属明細 3) 事務局の現況 (2017 年 12 月 31 日現在)

職員 15 名は事務局と物理学系学術誌刊行センターに分かれており、派遣職員等を含む人員配置の内訳は以下の通りである。

事務局	職員 13 名 アルバイト 1 名 派遣職員 2 名
刊行センター	職員 2 名 派遣職員 2 名 JPSJ 専任編集委員長 1 名 JPSJ 専任編集委員 1 名 PTEP 専任編集委員長 1 名

一般社団法人 日本物理学会  
2016 年事業報告附属明細書  
(2016 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

・記載すべき事項 特に無し